

ピアノ・ミュージックフェスティバル・セレクション 3

1. はなれてもいっしょ ～映画『プーと大人になった僕』より/R.M.シャーマン

SMFあり

☆☆☆☆☆

児童小説やディズニーアニメでおなじみの”くまのプーさん”を実写化した映画『プーと大人になった僕』のオリジナル曲です。8分音符のメロディーはすべて揺れるようにバウンスします。くまさんが楽しそうに歩いている様子を浮かべながら弾いてください。Aからのメロディーのアーティキュレーションに注意して弾きましょう。右手と左手のタイミングがずれないようにしっかりと揃えてください。Cから最後にかけては、段々消えていくような感じが欲しいので、Cの前の小節のソからは *mp* で弾くようにしましょう。

2. 笑一笑～シャオイーシャオ!～/ももいろクローバーZ

SMFあり

☆☆☆☆☆

映画『クレヨンしんちゃん 爆盛!カンフーボーイズ～拉麺大乱～』主題歌です。”笑顔”がテーマの曲です、元気に笑顔で演奏してください。Aのイントロは、力強くスタートしましょう。B、Cは、軽いタッチで優しさを表現してください。Cの7～8小節は、Dのサビに向かいクレッシェンドしてください。Dはイントロ同様に力強く元気に弾いてください。左手の伴奏を少し短めに弾くと重くならず軽快になります。ミュージックデータと合わせて弾く時は、2拍目、4拍目に鳴るスネアドラムの音を意識して演奏すると、データと一体化してとても良いアンサンブルになります。この曲のようなポップス系は、リズムが大切です。アンサンブルに限らず、ソロ演奏の時も2拍、4拍を意識して演奏しましょう。

3. オン・マイ・オウン ～『レ・ミゼラブル』より/C-M.シェーンベルク

SMFあり

☆☆☆☆☆

フランスの文豪ヴィクトル・ユゴーの同名小説を原作としたミュージカル『レ・ミゼラブル』の劇中で、エポニーヌが叶わぬ恋心と孤独を歌っています。甘く切ないメロディーは、歌心をもってレガートに、また常に伴奏との音量バランスに気をつけて表情豊かに演奏しましょう。Bでは気分を変えて、和音の伴奏はしっかりと刻みながらも硬い音色にならないよう、柔らかいタッチを心がけてください。Cで一旦気持ちを抑え、最大の盛り上がりであるDに向かいます。allargandoを経てEに入る箇所は、この曲のポイントの一つです。しっかりと落差をつけましょう。Eへは呼吸を整えてから入り、最後の一音まで表現することを忘れず、ドラマティックに仕上げましょう。

4. アイノカタチ feat. HIDE (GReeeeN) /MISIA

SMFあり

☆☆☆☆☆

MISIAらしい感動的なバラードです。ボーカル曲をピアノで弾く場合は音符が少ないため、盛り上げるのが難しいと思いますが、何よりも美しい音色で弾くことを心がけてください。そして各フレーズがなめらかに歌えているか、フレーズの終わりがきちんとおさまっているか、表情豊かに聴こえるよう、よく研究しましょう。F～Gは静かなサビから少しずつ動きが出て再度サビに向かう、この曲の一番盛り上がる所です（原曲では転調します）。Gは右手がフェイクしており、コードも変化しているので十分に練習をして、解放感を持って思い切り演奏してください。Gの4小節目はデータが2拍3連で動くのでつられないよう、4分音符のタイミングを少し強調するように弾いてみましょう。

5. 夜のストレンジャー/フランク・シナトラ

SMFあり

☆☆☆☆☆

シナトラの歌手としてのキャリアを代表する曲の1つです。あたたかく語りかけるように、一つ一つの音に気持ちを込めて演奏してください。右手は、カウントにきっちり合わせて弾くのではなく、前後に揺らして弾くことで、この曲の持つ優しさを表現する事ができます。Bで静かに歌い始め、後半E、Fに向かって徐々に盛り上がるアレンジになっています。E、Fの右手は、メロディーライン（トップノート）がはっきり出るように弾くと、バランスの良いハーモニーになります。Eの最終小節の8分休符でブレスをし、気持ちを切り替えて新しい展開のFに進んでください。F9小節目からのオブリガードは、原曲ではフルートが演奏しています。歌声とフルート、それぞれをイメージして演奏すると、より表情豊かなサウンドになります。

6. Lemon/米津 玄師

SMFあり

☆☆☆☆☆

2018年のTVドラマ『アンナチュラル』のために米津玄師が書き下ろした大ヒット曲です。歌は、亡くなった人を悼む痛切な内容で、16ビート・シャッフルの歯切れの良いリズムの中にところどころ内省的な表情を含んだ曲想です。曲全体でそういったストーリーを感じさせるよう、一本調子にならずに感情の起伏を表現することが、まず演奏のポイントとなるでしょう。メロディーは言葉のフレーズの区切りとメリハリが十分に感じられるようにアーティキュレーションをつけて、特にサビのD、Eでは力強いアタックで躍動感を表現できるとよいでしょう。同じくサビの左手のストライドの伴奏パターンは、思い切ってポジションを移動することによって明確なリズムを出すことができるでしょう。

7. サムワン・ライク・ユー／アデル

SMFあり

★★★★☆

2011年に大ヒットしたナンバーです。アルペジオの伴奏が始めから終わりまでほぼ途切れることなく続きます。そのリズムやテンポを常に一定になるよう維持し、データを取り入れるなどして、全体により気を配って正確に丁寧に演奏することが必須となります。右手のメロディーはフレーズに沿って唄うように、あるいは語るように、何かを伝えようとする意志を持って演奏しましょう。もちろんペダルは全編において必要ですが、細かい音の響きをよく聴いて、濁らないよう注意深く、効果的に使ってください。同じような伴奏が続くため、データの音量などを聞いて、強弱をよりくっきり出すことが必要ですが、右手は乱暴にならないよう、左手の16分音符の伴奏の音量が上がりすぎないように気をつけてください。必要である音とバックに回っている音の違いをしっかりと意識して、バランスよく演奏しましょう。

8. storia／Kalafina

SMFあり

★★★★☆

物語のような世界観を持つ、展開の多い楽曲です。盛り上がるどころや強弱をはっきりと、曲全体のバランスを考えて演奏に臨みましょう。8分の6拍子ですが大きな2拍子と捉えて、1拍目と4拍目に意識を置き、データも利用しながらその揺らぎを感じ取ってください。ほとんどの右手のメロディーは和音と一緒に動いています。その中の主要な音がしっかり聴こえるように、そしてめまぐるしく動く左手のアルペジオ伴奏、それとともに変わっていく調性など、ただ流されるだけにならないよう丁寧に練習することが大切です。ペダルは特に決められた使用法はありませんので、全体に音を細かく聴きながら、濁らないよう、美しい響きが得られるように工夫して使ってみましょう。始めに現れる[A]のドリアンスケールのテーマは、後半[G]でナチュラルマイナースケールに変化しているので譜読みに注意してください。

9. デスパシート／ルイス・フォンシ & ダディー・ヤンキー ft. ジャスティン・ビーバー

SMFあり

★★★★☆

ループするコード上を、語るように曲が流れていきます。和音やアレンジは一緒でも、伴奏やメロディーの形は少しずつ変化していくので、現在地を見失わないように進行をしっかりと把握して弾きましょう。16分音符などでの同じ音の連打が続く右手は、乱暴になったり、リズムが乱れたりしないように、データを聴いて正確なテンポを保ちながら練習してください。音数が多く滑らかなメロディーと対比して、伴奏は常に軽やかに演奏します。ペダルはスラーの付いている左手の1、3拍目のみ使用するのが一般的ですが、盛り上げたいところ、例えば[E]や[H]の後半などでは思い切って全体にペダルを取り入れて見るのも良いでしょう。

10. Yuri on Ice ～アニメ『ユーリ!!! on ICE』より／梅林太郎

SMFあり

★★★★☆

フィギュアスケートを題材にした同名アニメのテーマソングです。大きなフレーズを感じながら、長い呼吸で演奏しましょう。声部の弾き分けと、響きを作ることが大切です。主旋律、バス、和音など、役割ごとに音色を変え、豊かな響きを作りましょう。[A]左手、1小節1拍め、Ab音は、8分音符分音を保持するのではなく、空間に開放されて広がる響く音を意味しています。その後も同様の箇所が多くあります。保持する音と解放する音、どのように表現するか考えてみましょう。アルペジオは腕と手首を柔らかく使い、重心の移動を心がけましょう。左右の受け渡しに注意して、音楽の流れが止まらないように、ひとつのフレーズに聞こえるように注意しましょう。和音が変化するタイミングを中心にペダルを使いましょう。音をよく聴いて、踏みかえるタイミングをコントロールし、響きを作りましょう。音色を変化させるために、ソフトペダルの使用も効果的でしょう。

11. ブランデンブルク協奏曲 第5番 第1楽章より／J.S.バッハ

SMFあり

★★★★★

さまざまな楽器のための6曲からなる協奏曲集のうち最もよく知られているのがこの第5番です。鍵盤楽器が通奏低音としてずっと曲を支えるのみならず、長大なソロ（カデンツァ）を披露するのが特徴です。時代に則ってチェンバロで演奏されるのが一般的ですが、現代のピアノが用いられることもあります。ここでは第1楽章を3分の1ほどの長さに短縮していますが、原曲と同様、ピアノは時にオーケストラと一体となり、時にソロ楽器のフルートやヴァイオリンとの対話を楽しみつつ、後半ではアクロバティックとも言える技巧を駆使して前面に躍り出る展開となっています。演奏者の発想次第で、チェンバロをイメージしたバロックらしい緻密な演奏、あるいはピアノの豊かな表現力を活かしたダイナミックな演奏のどちらも可能でしょう。(tr)と書かれた部分など、バロックの慣習によってトリルや装飾音はある程度自由に解釈しても良いでしょう。

12. マイルストーンズ／マイルス・デイヴィス

SMFあり

★★★★★

マイルス・デイヴィスが1958年に発表し、ジャズにおける「モード」の手法を確立した作品として有名です。タイトルは「milestone」（節目、一里塚）と「マイルスのトーン（音）」を掛けた二重の意味を持たされており、「マイルス・トーンズ」と表記されることもあります。ここでのモード手法とは、通常の「コード進行」を用いず、各セクション内では一つの特定の音階のみを使ってメロディーやアドリブを作る方法で、譜面の[A]および[C]はG-ドリアン（B音にb）、[B]ではA-エオリアン（A minorと同じ）の各音階に基づいています（ただしアドリブ部分では単調さを避けるため一部あえてA-ドリアンを使っています）。これらの音階を用いて[D]では通常のピアノ・ソロ、[E]では左手のソロ、[F]ではテーマとリズムのソロを交互に、という構成としました。コード進行による音楽の流れを表現できない分、リズム感や、音色やダイナミクスの使い分けが最も重要な演奏のカギになるでしょう。